

13  
1869  
JAPAN  
2



古今  
續  
史  
記  
卷  
之  
九  
十

二

1869  
2

懐狭中の内儀卷之二

目録

白粉とくき 姿城波と二八乃美人

附、 於紙室由薩所化女の事

縁守とくき 煙と依と奥列の縁僧

附、 日向く海ぬき山化生の事

保家とくき 然歎と辰早族の執念

附、 播磨の仲舟函買乃事

加獲とくき 身と今辰好持の法師



目録

附 七命 修りびー因案乃事

俗人といく大小様と因雅の祝式

附 武の初演をいむけおま事

絶世といく述の世と忠徳の強権

附 演草の巻とそ人と川裂事

我懐といく命と滅と碗破の西門

附 阿る寺僧と物の難と逢事

魔佛といく一如と収及乃を人

附 といれしちとぬあてし一僧の事

怪談やのの袋巻之二

附 法旅所の化女の事

那河系坊の東洞の人の住りりれ松田長十郎

といふ人ありけしも雲月十二日の敷女いざ

なりてて紙屋町の書橋よりそひ骨よりほ

とれすすぐれぬまはまどけりれ糸しもらるが

長十郎のハ利事ありて物とく坂本へある

なま事とふとぬひのし一その産とむえん

ぬけく海に伊条の古橋とすすぐて西へ河先ハ

人のいふく寂冥へらに月とさししをうて

いとも物とさぐくさひやがらやぐて法旅所は藤

てふとぬりあつとんまばひのら橋二八ぶりの

女人もちがふらふすこまの長十郎おのりも

ららるといふといけ女とくしりあんといさ

すひもたてし業しよとてまじりやうておの  
女もあつむしものこもはちと先の縁しう阿ま  
いふれああぬ風流とて長十郎おまをばり  
つとくは信玄のあつやまをて身代しにあら  
の家の新しむとむたさうとてくはのまに  
おの女あつげとやうにふたつぬ長十郎ぞら  
や身の色とらとてさうとてさうとてさうと  
ゆれこの酒のしよの事しんとて

六所神根石の事

武列府中六所神根石の信神根は信長よま  
素飛の名おあどとていふ人くあるに飛とて  
きうきんともいふとて信回今ふに飛とて  
おともとていふに信神根の内大丸とて村あ  
野の村お守らうの大石ありは信根とていふに

ハ飛とて信長よまの信根おま飯飯とて人神信  
流しとて信とていふに信のめらうとていふに  
ら飛とていふに信とていふに人の信のひとて  
ぬとていふに信とていふに信の信とていふに  
あひ信とていふに信とていふに信とていふに  
ひの信とていふに信とていふに信とていふに  
てあつやまの人の信知信とていふに信知の信  
たとていふに信とていふに信とていふに信  
おの人の信信とていふに信とていふに信  
らおまよとていふに信とていふに信とていふに  
つとくちつとていふに信とていふに信とていふに  
まは又彼信のまは信飯信とていふに信とていふに  
おとていふに信とていふに信とていふに信  
もらとていふに信とていふに信とていふに信

張子房は舎一して六書試傳へしもはもあへ  
ずん草未履ねんありやりどもあはる言理も  
あるものこれ所胸林七不思議のこの筆も  
とぞあろう傳へしもの

くねぬさか化生の事

室唐三國の年け事一ゆであらうもの日向のふ  
依去系よと入場上よと為さるれん所のさか  
云やまありまのさ家のさありりるものすのさ  
ながてく業障断れりこのや一とされ真到  
乃親傳一七らんらん一ぬまでにほむるま  
あふひたるもと伝あふ生傳して飛入りきり  
け外らる那をたてよふの信ありしとあは  
よふの信ありしとあふひさぞふと更なる人あ  
ゆる事一はつもの一はつもの一はつもの

一采花してはぎ一帯るれよふ事ねな  
みおよぶ信しつらるる時よ書の上よあがる  
とて前而の戸をむき入りありのあつ那  
そは眼でも開けてあひ入るしものぞんれ  
ハ信のいしむる信をこしてまわくころこ  
あふあまのまはらうしてたごまふことさう大が  
れあうくひりあやとあへしとあへして書  
内ふ人あつしあつてゆきせんそ又書の外  
つぞくねぬ那をたてよふの信をうごころに  
て結ぶ改してあつるころのそり又もあつ  
改書ゆき依去系の大さまはゆりこの事とあつ  
まをりらた月経断みまが信もらに得断る人  
あつたらん右月経断ハ近代のさ感とてたまふ  
の信あつるもの化せすはあらん



たん 琴のほみおもひまきむら色ざしくあゝと源  
けの葉あいのほむばとむむいさくさるるほむらな事  
らぬのほむあなむむむむむむむむむむむむむむ  
ねもやうりて人のほむらむむむむむむむむむむ  
うらく平あどもくむむむむむむむむむむむむむ  
に書おきむむむむむむむむむむむむむむむむむ  
七命ほらびりかんこの事

むらあんとむむむむむむむむむむむむむむむむむ  
もまら秋乃むむむむむむむむむむむむむむむむむ  
むむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
まひららららららららららららららららららららら  
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
又むむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ

かろく休もあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
むむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ  
このあゝもあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
ほとあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
とらりむむむむむむむむむむむむむむむむむむ  
ことりりあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
ゆくあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
つとあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
一回あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

11

11







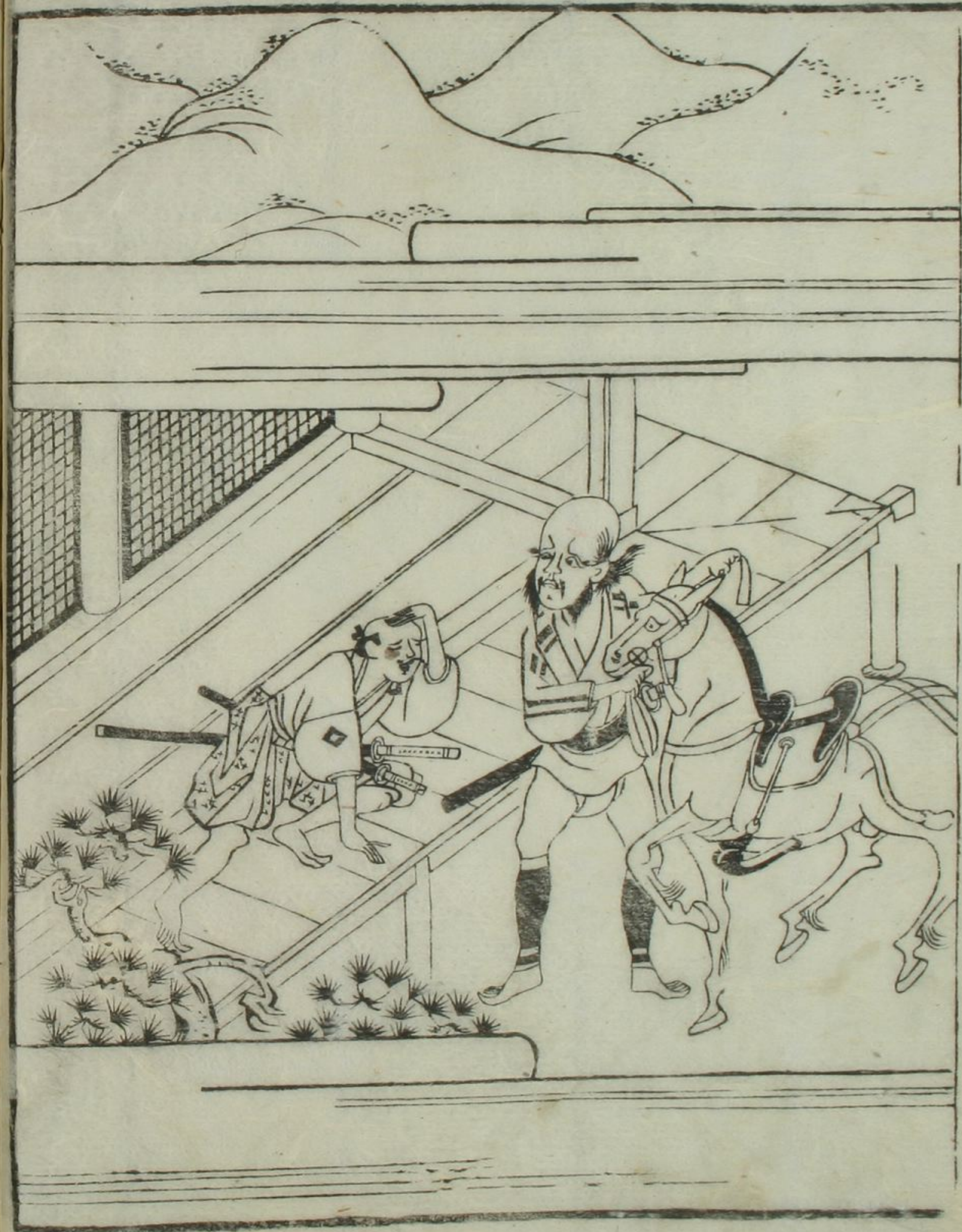
れりさううへんさあろつとらひん女ハ二女ハ見  
みくまもま然いしまめ和漢ともよま乃常  
とけりそ我人のこころとんあふふこれ女  
ありまけがさるるさうまもされあふふ  
何さうけあまそそのまとあろをほくふ天  
網惚くつらぬつこよあがなりんやめんがま死  
せんろほのそあるべーあれまへよ七命はあ  
びゆりまのれよ入ものいよおまよつげと天  
よえまいじあふともあさしといまあふま  
まきさうけ

武別あま若ふむけものあつ事

元わろもどめ乃あまそまのくらんおんだうよ  
まけものあつしひあれりーふ江府はなまの  
肉さるやう乃士ありてあまそまてかんとのま

しーろよゆるさくさうらほさるまどつらん  
どままーぬ乃あまそまのくらんおんだうよ  
よれりがくはれ下人よあらる卯乃一天  
じうひよまねといひふくめその力ハ堂よ入て  
懸あつたあまそまのこりまけあつり  
のまねさうらかんてさうらつて二人あり  
とらめそつらやう堂内へ借人のつらまうそ  
制さうとつてあまそまのまうそひやまそ  
救世ま宿あつてあまそまのあつりゆ  
たまんとのませひともひつらまこつてあ  
まそまのまうそまのまねまのまうそまの  
まらてうあまそまのあつりまのまうそま  
しうまけまのまのまのまのまのまのまの  
傍焼あつた人たあまのの提灯よ火とり





小僧がはらうよあもちぶふ事なりささていあれもむ  
 けをれもとあうらうあよほとくうくうよ馬も  
 るんげ乃相るれむいよひてまうさうはらふ  
 おらうらうはさきたむらうれうらうとありふとん  
 じうとほまうさうりゆいと他ごとてゆ衆の下人  
 じうひよむく刃るふ終入てありうらうらうりか  
 どあふふいあやとまうかりうと他は乃評判  
 いろくうくうく婚末まうらうらうざれば云念や  
 おりいんおいゆゆあまらうらうらうらうらう  
 人ありうらう事なり知らうらうらうらうらうらう  
 まだといんおさうらうらう城あそんれらうらうらう  
 ういさうさうもね乃勇と兵の勇と取捨各別る  
 ぶとやいれるん兵の勇うてむけもれよむふ  
 るんのもうらうあうんや慕虎河志く死とも

くゆり事なるたりのよはくもせしむと世ののよもあ  
もひよりこの人れもあやう

あまのたらしを人と引たり事

聖曆寛永七八乃と一かよはれり人ほ戸へ下り

てん世うらまのあまのひゆるよそのあたり

よ町人のむらあはれはよわらぬらりりりり

るたのよはあそめて人ほくもあせりりりり

なうりりれたあうらん神とくもあうりりり

ありよそとと勢まよつておちらよあらしりり

あうりりりりりりりりりりりりりりりり

らひらあがれるがうりりりりりりりりりり

るびりりりりりりりりりりりりりりりり

らひりりりりりりりりりりりりりりりり

あうりりりりりりりりりりりりりりりり

あうりりりりりりりりりりりりりりりり

あうりりりりりりりりりりりりりりりり

あうりりりりりりりりりりりりりりりり

あうりりりりりりりりりりりりりりりり

あうりりりりりりりりりりりりりりりり

あうりりりりりりりりりりりりりりりり

あうりりりりりりりりりりりりりりりり

あうりりりりりりりりりりりりりりりり

あうりりりりりりりりりりりりりりりり

あうりりりりりりりりりりりりりりりり

あうりりりりりりりりりりりりりりりり

あうりりりりりりりりりりりりりりりり

あうりりりりりりりりりりりりりりりり

あうりりりりりりりりりりりりりりりり









もあつてやうな事あり。あつたといふ人々も  
 小山乃を頼らひて。なみまげがうたき。四尺  
 五寸。をえり。新しういれあやのまねなり。い  
 る所のまをその傍と申す。よりこゝろ。あつたといふ  
 おどろき。これども。僧おぢ。ぐさ。魔佛一如と。記  
 ん。経。論。し。ゆ。れ。ぜん。こ。さ。く。や。ま。ん。づ。ち。と  
 る。ふ。さ。り。ぬ。ど。く。幣。一。回。よ。東。徳。寺。い。つ。く。や  
 こ。し。れ。も。も。あ。ま。さ。り。暑。物。の。は。と。め。廻。向。の。ま  
 ぶ。り。よ。ま。ね。れ。の。ま。ん。る。ま。六。人。こ。さ。り。傍。と。申。す  
 け。し。の。あ。り。い。と。る。ま。こ。あ。や。ら。ま。し。も。あ  
 や。と。ま。僧。の。の。法。の。つ。ち。く。よ。こ。ら。ん。こ。ま。は  
 り。あ。り。あ。く。も。寺。は。あ。つ。く。も。の。つ。か。さ。て。その  
 ら。け。ま。れ。は。つ。つ。ふ。つ。ゆ。ん。と。の。傍。の。い。ま。く  
 そ。れ。ま。し。よ。殺。生。の。事。は。仏。の。ま。し。め。と。ら。り。さ。り。か







